



## 坂中校歌に想う

PTA会長 宮城 弘明

何気ない時にふとあるメロディーが口をついて出てくる。母校坂野中学校の校歌だ。卒業してからもうすぐ40年が経とうとしているが、校歌を歌う時、私は中学の頃を思い出す。当時校歌は式典がある度によく歌った。さびの部分の高い音が、声変わりした男子にはちょっと苦しかったが、歌うのが好きだった。

初夏の頃、授業中校舎の窓から見る豊かな坂野平野の田園の稲は、風になびいてまるで緑の波の様だった。豊かな自然に恵まれ地域の人も暖かい。一年生の頃は校舎の右側に木造の平屋の校舎が残っていた。すり減った床、建てつけの悪い窓、夏の日への照り返しの暑さ、冬の日への冷たい隙間風、その廊下の奥の真正面の壁の上に「闘魂」と書かれた額が掛かっていたのを鮮明に憶えている。

グラウンドに響くバットの快音、テニスラケットがボールを打つ音、体育館に響く歓声、リズムカルな吹奏楽の音、砂埃と汗の匂い。個性豊かな同窓生たち男女の区別なく仲の良い友であり時にはライバルである。勉強もスポーツも切磋琢磨し合った。学校中にエネルギーがみなぎっていた。伸び盛りの私達は天井を知らない。

春の淡い桜の花びら、夏のジーン響く蝉の声、秋の甘い金木犀の香り、冬の水路の分厚い氷のきらめき、思い出の断片は抒情的だ。

この前、最後の坂野中学校の体育祭を見せて頂いた。生徒の若さと一生懸命さは今も昔も変わらない。私達の時は秋の開催だったか。組み体操やフォークダンス、そう仮装行列もあったような記憶がある。また九州への修学旅行も思い出深い。先生方も親身に生徒の事を思ってくれた。時には厳しくまた優しく信頼の絆で結ばれていた。現在も5年ごとに同窓会をさせて頂いている。恩師の先生方もお招きし、その時は先生と男子と女子に帰って昔話に花が咲く。

中学時代は人生の型を決める大切な時ではなかったか。英単語をひとつずつ憶えるように、スポーツの型をひとつずつ体得していくように。新しい出会いも大切にしたい。

今日のひとつひとつの学びがあしたの大きな歴史をつくる。この大切さを教えてくれた、「学びの園の坂野中学校」69年間本当にありがとう。また陰に日向に坂野中学校を支えて下さった小松島市の行政の皆様、歴代の教職員の皆様、また地域の皆様に、そして歴代PTAの皆様に心より感謝申し上げます。

この度坂野中学校と立江中学校は関係各位のご尽力で小松島南中学校に統合されます。時代の流れとは言え母校がなくなるのはとても寂しいことです。年を経るごとにその思いは強くなるかもしれません。新中学校になっても坂中魂を土台に新しい伝統と歴史を作って頂きたいと思えます。

例えば校舎は無くなっても、校歌を口ずさむ時あの頃の歓声、笑い声、金木犀の甘い香りがよみがえるでしょう。

私達の青春の坂野中学校は「久遠の光」の中にいつまでも輝き続けています。